

生徒指導のための共通実践事項

	観 点	内 容	チェックポイント
校長・副校長・教頭	基本姿勢	指導理念、方針、ビジョン等の明確化と積極的な指導・助言	☐ 指導理念、教育方針等を全教職員に明示している。 ☐ 重点事項の徹底を図るための手立てを講じている。 ☐ 教職員に必要なかつ的確な指導・助言をしている。
	課題の把握	生徒指導上の課題を的確に捉えた迅速な対応	☐ 不登校やいじめ、暴力行為等の課題の本質を捉えている。 ☐ 課題解決の手順について全教職員に共通理解を図っている。 ☐ 迅速な対応を図るための手立てを講じている。
	組織の整備	チームとして機能する組織の整備	☐ 全教職員による機能的な組織体制を整えている。 ☐ 組織的な取組につながる校内研修を実施している。
	全校の共通実践	P D C A サイクルの確立と共通実践事項の具現化	☐ 共通実践事項が全教職員に浸透している。 ☐ 課題解決に向け組織で対応している。 ☐ 児童生徒の変容を捉えるための手立てを講じている。
教務	目標達成の連絡・調整	生徒指導の目標を達成するための連絡・調整	☐ 生徒指導に関する会議や研修、教育相談日等について、教職員と連絡・調整を図りながら、時間を確保している。 ☐ 生徒指導に関わる学年部会の設定等に配慮している。
生徒指導主事	企画・立案・実践	組織的、体系的な取組の推進に向けたマネジメント体制の構築	☐ 生徒指導の実践上の視点を全教職員が共通理解している。 ☐ 全校的な生徒指導体制の下、指導計画を立案している。 ☐ 指導の過程や結果を評価し、改善を図っている。 ☐ 発達支持的生徒指導や課題未然防止教育を推進している。 ☐ 児童生徒の自己肯定感、自己有用感の育成に全校体制で取り組んでいる。
	学年・組織間の協働	学年間や各組織との連絡・調整と協働	☐ 指導計画の推進に向けて連絡・調整を図っている。 ☐ 指導の充実に向けて話し合いの機会を設定している。
	現状把握と対応	児童生徒の生徒指導上の諸課題の的確な把握と迅速かつ適切な対応	☐ 不登校やいじめ、SNSの利用状況等を組織的かつ的確に把握し、全教職員で情報を共有し、指導に生かしている。 ☐ 課題解決に向け迅速かつ適切に対応している。 ☐ 家庭・関係機関と連携・協働して課題解決を図っている。
	指導・助言	状況に応じた学年や各校内組織への指導・助言	☐ 生徒指導上必要な資料の提示や情報交換によって、全教職員の意識を高め、意欲的に取り組むよう促している。 ☐ 広い視野から関係教職員に適切な指導・助言をしている。
教育相談担当	計画・実践	計画的・組織的な教育相談の実践	☐ 教育相談の目的を全教職員と共有している。 ☐ 校内外の連携の下、計画的・組織的に進めている。 ☐ 児童生徒の状況を多面的に把握するための、実践的な研修を実施している。 ☐ 校内外の相談窓口について周知を図っている。
	助言・援助	教育相談の考え方や方法を生かした教育活動への助言とその展開	☐ 児童生徒を共感的に理解し、自己実現を支える働き掛けが全教職員によって行われている。 ☐ 児童生徒が主体的・能動的に自己決定できるような助言・援助が全教職員によって行われている。
養護教諭	児童生徒の心身の健康状態の把握と対応	児童生徒の心や身体の悩みの把握と対応	☐ 児童生徒の心身の健康状態について日常的に情報収集と分析・整理を行っている。 ☐ 悩みや問題を抱える児童生徒に寄り添い、受容的・共感的に話を聞いている。 ☐ 関係機関との連携により得た情報を、児童生徒の指導・援助に生かしている。
	学級担任等との連携	管理職、保健主事、生徒指導主事、学年主任、学級担任等との連携	☐ 児童生徒の心身の健康状態について管理職に報告し、組織的な支援につなげている。 ☐ 学級担任、学年主任等と日常的に情報共有し、連携を図っている。
学年主任	学級担任への指導・助言	生徒指導の重点目標及び共通実践事項についての具体的な指導実践	☐ 学年部の課題を共通理解し、組織的に対応している。 ☐ 適切な指導の時期、方法を考慮した手立てを講じている。 ☐ 学級担任の実践上の悩みに寄り添い、共に解決策を考えている。
	児童生徒の実態把握と対策	児童生徒の日々の行動把握と、学級担任との話し合い及び適時の指導体制の構築	☐ 学年部の実態把握に向け、具体的な手立てを講じている。 ☐ 学年部教職員や養護教諭と連携し、課題解決に向けた手立てを講じている。 ☐ 広い視野から児童生徒理解を行い、必要に応じた手立てを講じている。
	学年内の連携・調整	学年内の連携・協力体制の確立	☐ 同僚性を基盤とする学年の雰囲気づくりに努めている。 ☐ 学年部教職員が連携・協力する体制づくりに努めている。
	他学年との連絡・調整	他学年との連絡と情報の交換	☐ 教科担任との情報共有を日常的に行っている。 ☐ 他学年等と学年の指導方針について共通理解を図っている。

学級・ホームルーム担任	学級・ホームルーム経営の基本姿勢		共感的な人間関係を基盤とした、支持的で創造的な学級・ホームルームづくり	☐ 児童生徒との信頼関係を深めるための具体的な手立てを講じている。 ☐ 児童生徒相互のよりよい人間関係を育むための具体的な手立てを講じている。 ☐ 安全・安心な学級風土の醸成に努めている。 ☐ 毅然とした指導と受容的な援助を両輪とした、学級・ホームルーム経営を行っている。
	内面の把握		一人一人の内面や状況変化を的確に把握するための手立ての明確化	☐ 児童生徒の心の動きを捉えるための手立てを講じている。 ☐ 言動や容姿等の細かな変化を捉えて適切に対応している。 ☐ 児童生徒との面談の機会を計画的に設定している。
	児童生徒との接し方		一人一人が自己存在感を感受できる機会と場の設定	☐ 児童生徒の立場に寄り添い、共感的理解に努めている。 ☐ 児童生徒の家庭環境、興味・関心、友人関係等の把握に努め、指導に生かしている。
	教職員間の同僚性		教職員同士が支え合い、学び合う同僚性の形成	☐ 学年主任や養護教諭、教科担任等と連携して組織的に対応している。 ☐ 指導で悩んだときは、一人で抱え込まず、他の教職員に相談し、助言を仰いでいる。
	家庭との連携		保護者との信頼関係に基づく緊密な連携・協力	☐ 家庭から協力を得られるよう、日頃から信頼関係の構築に努めている。 ☐ 家庭との連絡体制を整え、適宜家庭訪問等を行っている。
教科担任	個に応じた指導		教科等の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりと、一人一人の学習状況に応じた指導・支援	☐ 児童生徒の多様な学習状況や興味・関心に応じて、指導方法を工夫し、「分かる授業」を展開している。 ☐ 共感的な人間関係が育つ学習集団づくりを行っている。 ☐ 学習上のつまずきの原因を分析し、改善を図っている。 ☐ 自己決定する場を設定している。
	児童生徒との接し方		一人一人が自己存在感を感受できる機会と場の設定	☐ 自己肯定感や自己有用感を育むための具体的な手立てを講じている。 ☐ 児童生徒の反応や様子の変化を捉え、指導に生かしている。 ☐ 授業を欠席した児童生徒へ配慮している。
	学級担任等との連携		学級担任等との連携・協働による、一人一人を大切にしたい指導の展開	☐ 児童生徒の授業中の状況について、学級担任等と連絡を取り合っている。 ☐ 授業を欠席した児童生徒を学級担任等に報告している。
特別支援教育コーディネーター	校内の連絡・調整		管理職、教務主任、生徒指導主事、学年主任、学級担任等との連携	☐ 校内委員会やケース会議を企画・調整し、支援を要する児童生徒の実態把握、支援方策の検討等を行っている。 ☐ 「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」の内容を確認し、必要に応じて学級担任に助言等を行っている。 ☐ 関係機関等についての情報収集・整理を行うとともに、学級担任等へ情報提供を行っている。
	関係機関等との連絡・調整		小・中学校等特別支援チーム、高等学校特別支援チーム、特別支援学校、医療、保健、福祉、労働機関、進路先等との連携	☐ 関係機関等への相談をする際の情報収集と連絡調整を行っている。 ☐ 進学（就学）先・進路先への相談・引継ぎを計画している。
全教職員	教職員の連携	全教職員の一致協力した生徒指導の推進	チームとしての組織的な支援と個々の児童生徒や集団の理解	☐ 児童生徒理解を深めるための研修を行っている。 ☐ 教職員一人一人が役割を自覚し、生徒指導体制の整備・充実に努めている。 ☐ 教職員・児童生徒相互の和やかな一体感が育まれている。
		全教職員による生活実態の把握	課外における児童生徒の状況把握及び必要に応じた情報共有と指導の充実	☐ 部活動や校外活動等における人間関係や家庭での生活状況等を把握するための手立てを講じている。 ☐ 把握した情報を基に、全教職員で対応に当たることができる体制を整えている。
	家庭・地域社会との連携	学校から家庭・地域社会へ	学校の教育方針や重点事項等を十分理解してもらうための機会・方法・場の明確化	☐ 学校の教育方針等について周知を図っている。 ☐ PTA全体会や学級懇談会等の機会を活用して、重点事項等を周知し、協力を得ている。 ☐ 家庭・地域社会に対して、学校いじめ防止基本方針の周知を図り、協力を求めている。
		家庭・地域社会から学校へ	家庭・地域社会の声や情報等を学校に反映させるための機会・方法・場の明確化	☐ 家庭・地域社会の声や情報を集めている。 ☐ 家庭・地域社会の願いを学校の教育活動に生かしている。 ☐ 情報等を学校に反映させるための組織が機能している。
		家庭・地域社会における生活実態の把握	生活状況・実態とその変化等の的確な把握と対応	☐ 家庭・地域社会での児童生徒の生活状況・実態とその変化等を把握できるような体制を整備している。 ☐ 非行につながるおそれのある場や環境を把握し、地域社会を挙げて規範意識の醸成を図っている。